

「輝きあんしんプラチナ社会」実現に向けて



県では「輝きあんしんプラチナ社会」の実現に向け、県政運営の方針となる「総合計画」の暫定版を策定しました。中でも、重要な課題の一つである定住促進や子育て支援は、県民と気持ちを合わせ一体となって取り組んでいく必要があります。そこで、2012年に家族で山梨に移住したタレントの北川えりさんに、山梨の魅力や山梨での子育て、山梨の未来への期待などを後藤知事と語っていただきました。

山梨ならではの景観 住んでいる人の地元への愛着

知事 北川さんは3年前に山梨に移住されたことですが、きっかけは、何だったのですか。

北川 2011年の春に牧丘にある主人の父の老家跡に遊びに来た時、家の前に咲く桜の木と、盆地を桃の花が彩る美しい景色を見て、いい所だなと実感したのがきっかけです。それまで東京や横浜で暮らしていましたが、東日本大震災の直後で、震災を機に将来のことや、その時お腹にいた長男のことも考えていたので、主人と「ここに住んでみようか」という話になり、翌春には移住しました。



知事 東京圏に隣接しながら水と緑の宝庫である山梨は、今年2月NPO法人ふるさと回帰支援センターが発表した「田舎暮らし希望地域ランキング」で1位になりました。でもそれは住んでみたいという希望であり、希望者をどう受け入れるかという地域づくりが大切だと思っています。住んでみて初めて見えることがあると思いますが、3年間暮らしてきた中で感じている山梨の魅力は何でしょうか？

北川 自然や景観はもちろんですが暮らしてみると、古い建物や蔵、道祖

山梨県知事

後藤
Hitoshi Goto

対談

齋

タレント

北川えり
Eri Kitagawa



ご主人の本家にあった古い蔵を新居に改築し、一家4人で暮らしている。リビングの窓からは、山の稜線(りょうせん)や盆地、そして遠方には富士山も眺めることができる



神などが目に入るようになりました。地域の人がその土地の文化も含めて古くから伝わるものを大事にしていることが、すてきななと思いました。地元への愛、温かみを感じますね。

**山梨の魅力を満喫できる
仕組みづくりを**

知事 山梨には各地域に埋もれている貴重な資源がまだまだあります。そこに光を当て、磨いていくことが行政の仕事だと考えています。例えば、桃の花が咲き誇る桃源郷の景色は、わずか2週間しか見られません。現在関係市と連携して山梨にしかないこの素晴らしい景観を世界農業遺産に登

録する取り組みを進めています。

北川 より多くの方に知ってもらうことが重要ですよ。私は旅行する際、現地のホームページやブログを見ますが、そこに掲載されている写真に魅せられて行く場所を決めることもよくあります。山梨ならではの豊かな自然や温泉、ワインやフルーツなどの特産品を、もっと視覚的にアピールしていくといいですね。

知事 まずは魅力的な情報をタイムリーに発信していくことが大事ですね。そして発信した情報をきっかけに実際に山梨を訪れ、「見て・食べ・体験してもらおう」といった行動につながる仕組みづくりを進めていきたいと思っています。

また、リニア中央新幹線の開通も大

きなインパクトですが、北川さんは山梨がどのように変わっていくと思いますか。

北川 首都圏や関西圏からのアクセスが良くなり、山梨に滞在できる時間が増えますよね。その時間を有効に活用するための交通手段の整備や県内周遊ツアーが充実してくるといいなと思います。特に外国の方は、体験ツアーが好きなので、そういったツアーも組み込まれているといい出に残るのではと思います。



知事

世界遺産に登録された富士山には、年間3千万人の観光客が訪れていますが、その7割は日帰りです。多くの方に長く滞在して楽しんでいただけるように、北川さんもおっしゃるとおり自ら参加、体験できる楽しさを提供することが必要ですね。

また富士山を目的に来県した観光客に、富士山からワイナリー、桃源郷などといった県内各地を巡るツアーを提案するなど、山梨の貴重な資源をつなぎ、発信していく仕組みもつくっていききたいですね。

北川えりさん プロフィール

1975年、静岡県生まれ。自動車教習所の教官を経て芸能界へ。テレビ番組「ワンダフル」のワンギャルや、NHK語学講座「中国語会話」など、テレビ、ラジオ、映画に多数出演。
2012年、自然の中で子育てをするため、ご主人の老家がある山梨市牧丘町に移住し、現在山梨を拠点に活躍中。
やまなし暮らし支援センターのイメージボスターにも起用されている。

**安心して産める環境
子育て支援にも期待**

知事 北川さんは2人のお子さんがいらつしゃるといことですが、山梨での子育てはいかがですか。

北川 上の子が3歳、下の子はもうすぐ1歳ですが、2人とも山梨の恵まれた自然の中で、伸び伸びと育っています。上の子は自宅の農園で一緒に畑仕事も楽しんでいます。そういった日常の生活の中で、大切なものを自然と感じ取り、学んでいるんだなと思います。

知事 子育ては楽しいことがたくさんありますが、大変なことも多いと思います。そこで、悩みを抱えている方に誰かに相談していいのかわからない方のために、現在、子育てで困ったときの手助けとなる携帯用の手帳を作成しています。地域ぐるみで子育てをして

いこうという関係づくりの一つとして活用してほしいと思っています。
北川 いざというときに相談先がすぐに分かるのは心強いですね。今の時代は孤立を感じているお母さんもいます。うちもどちらの両親も県外在住なので、すぐに頼れる状況ではありません。主人が育児も家事も協力してくれるので助かっていますが、仕事も忙しくて頼れないこともあります。今の状況では3人目を考えるのは、厳しいかなと感じています。私のようにもう1人欲しくても、ためらっているお母さんは多いのではないのでしょうか。



自宅の農園で家族そろってトマト、キュウリなどさまざまな野菜を栽培



知事 安心して産める環境は大事ですよね。県では、出産前後のお母さん方の不安や悩みを軽減するための「産前産後ケアセンター」を来年開設します。出産前後の悩みを助産師が聞いたり、出産後4カ月までのお母さんが数日間宿泊して育児指導などを受けることもできるようになります。

北川 専門的なバックアップは本当に心強いですからね。そんなケアセンターがあれば安心して子どもを持てる、という人が増えるのではないのでしょうか。ケアセンターにはとても期待しています。

県民みんなで作る 輝き あんしん プラチナ社会



山梨市牧丘町の自然に囲まれた生活が大好きだと語る北川さん

知事 人口減少、少子高齢化が進む本県において、子育て支援は重要課題です。これからも多方面から取り組んでいきます。他にも、今日は北川さんとお話させていただき、全ての県民が世代、地域を超えて支え合いながら、安心して暮らせる社会をつくり上げていくことの重要性をあらためて実感しました。県では現在「総合計画」の策定を進めています。多くの皆さんに意見を寄せていただき、その声を反映させていきたい

と思っています。そして、県庁は県民の皆さんをつなぐ触媒となり、誰もが明るく安心して暮らせる「輝き あんしん プラチナ社会」が実現できるように取り組んでいきます。

北川 より良い山梨にしていくには、県民と行政が気持ちを合わせていくことが大切です。

知事 県民の皆さんと共に、希望に満ちた山梨をつくり上げていきたいと思えます。今日は、ありがとうございます。ありがとうございました。



動画で見てみよう! 後藤知事と北川さんの対談

①スマートフォンまたはタブレットに「Laya」のARアプリをダウンロード(無料)②アプリを起動③右の写真にかざした後、タップすると動画が自動再生されます。

